森林の譚

二十一世紀の森づくりシリーズ　77

小山田利治家のモクレン

上須恵皿山小山田利治さんの庭には、見事な「白木蓮」の木があります。

モクレン科の木で紫のモクレンは兄弟、コブシなどは親戚の木です。落葉高木で15㍍くらいの大木になります。

原産地は中国で、日本には薬用としてもたらされたとされます。

花はかなり大型で芳香を持ち、地球上最古の花木ともいわれ、1億年以上前から生きているとされています。花言葉は「自然への愛」「持続性」だそうです。

皿山公園から上須恵方面に道をくだって行くと、カーブの正面の石垣の上に見事な白い花の群れる木を見ることができます。

一際目立つ木で、多くの人がこの木の存在をご存知ではないかと思っています。

奥さんが花好きで、20年ほど前、わずか70㌢ほどの苗を購入され植えておいたものが、現在の大きさに育ったものです。

清楚な肉厚の花が満開となる3月中旬、花がまだ少ない風景の中、すぐに目に入ります。

町内には、他にも白木蓮の木を見ることができますが、小山田家の木蓮はちょうど散歩などのコース上にあるので、多くの人に見られる好位置に咲く木蓮だといえます。

（自然教育林事務局長）

◇　◆

珍しい木・想い出の木・不思議な木・植物好き・花好きなど、木にまつわるおもしろい話を教えてください。

▼**連絡先**　歴史民俗資料館☎932・6312

歴史民俗資料館　昔の生活民具シリーズ…46

須恵焼　瓶子型御神酒徳利

この徳利は皿山の陶工小山田勝兵衛が文政11年霜月（太陰暦11月・現行の太陽暦に換算すると12月頃になる）に、上須恵南米里山王宮に奉納したものです。文政11年は西暦にすると、1828年ということで江戸時代も終りに近づいた頃です。

この頃は、須恵焼史上大変重要あるいは微妙な時期です。なぜなら、その翌年の文政12年に、約45年続いた第1期の黒田藩窯時代に終止符が打たれたからです。

藩政の窮乏に、須恵焼の売れ行きのわるさが重なり、須恵皿山奉行が廃止になったというわけです。

須恵焼史はさておき、この瓶子は神前に御神酒を入れる容器です。もともと素焼のものでしたが、磁器が焼ける時代に至り、このように磁器に呉須染付で焼出したものと考えられます。

底径12㌢、高さ19・5㌢で16弁の菊花に年号と奉納者の名前が書かれています。

ここでは作者小山田勝兵衛と記されていますが、文政13年の若殿様御成達記録には陶工名に勝平が確認でき、同一人物ではないかと考えています。（館長）

合併問題任意協議会を解散

3月2日に開催した第9回会議をもって最終会議とした志免町・宇美町・須恵町合併問題任意協議会は、3町長が協議の上、3月31日に解散しました。

志免町、宇美町、須恵町は、合併問題にかかる調査研究やまちづくり構想を策定し、住民の皆さんへ合併に関する情報を提供しようと、平成十五年七月七日に本協議会を設置しました。

これまで九回にわたる会議を開催。その中で「まちづくり構想町民会議」の提言や「住民意識調査」の結果を踏まえた三町の「まちづくり構想」およびそのダイジェスト版の策定。合併問題を考える「シンポジウム」の開催。二月末には「まちづくり構想」ダイジェスト版による「住民説明会」を実施し、住民の皆さんのご意見などをお聞きしてきました。

その協議会も、スケジュールにのった役割を果たしたということで、平成十六年三月三十一日をもって解散することにしました。

■平成15年9月号から掲載してきました「志免町・宇美町・須恵町合併問題任意協議会だより」は、今月をもって終了いたします。

志免町役場庁舎　須恵町役場庁舎

宇美町役場庁舎

3町の法定協議会設置を断念

任意協議会の全日程を終了した後、志免、宇美、須恵の3町長は、これから法定合併協議会へ移行するかどうかについて協議調整を続けました。しかし、3町長間での合意が困難となり、3町枠組みの合併協議は白紙に戻りました。

三町は昨年七月に任意協議会を設置し、合併問題についての協議を重ねてきました。四月には、法定協議会設置議案を各町議会に提案しようと、三町長は合意形成をはかるため、協議を続けてきましたが、合併の枠組みをめぐり、合意に至りませんでした。

三町のうち、志免町の南里辰己町長と宇美町の安川博町長は、来年三月末に期限が切れる現行の合併特例法とあわせて、平成十七年四月からの新合併特例法も視野に入れ三町合併を目指していました。

須恵町の中嶋裕史町長は、町内各界の意見や三月末に行なった町内小学校区ごとの住民懇談会での意見を踏まえ、新合併特例法による合併を目指すということと、粕屋中部との枠組みも考慮する必要が出てきたということにより、この問題についてはもっと時間をかけたい、という考えを明らかにしました。

その結果、三町長は四月六日、法定協議会設置議案の提案を見送ることにしました。

任意協議会の会長を務めた南里志免町長は、「法定協に移行した上で、三町の合併について論議をしたかったが、残念です。しかし、合併は避けては通れない問題です。今後も様々な動向を見ながら検討していきたい」と話しました。

※これまで、志免町役場内に設置していました志免町・宇美町・須恵町合併問題任意協議会の事務局は、本協議会の解散とともに閉鎖しました。　●**問合せ先**　須恵町役場　総務課　☎932－1151